

製品名: CPA1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09306**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	CPA1
別名	CPA1; CPA; Carboxypeptidase A1
遺伝子 ID	1357.0
SwissProt ID	P15085
免疫原	抗血清はヒトカルボキシペプチダーゼ A1 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 301-350

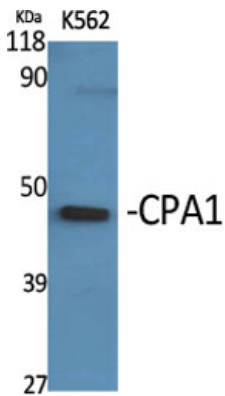
背景

この遺伝子は、亜鉛メタロプロテアーゼのカルボキシペプチダーゼ A ファミリーのメンバーをコードします。この酵素は膵臓で産生

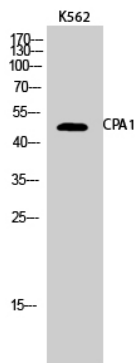
され、食物タンパク質から C 末端の分岐鎖アミノ酸および芳香族アミノ酸を優先的に切断します。この遺伝子と複数のファミリーメンバーは、7 番染色体上の遺伝子クラスターに存在します。この遺伝子の変異は慢性膵炎に関連する可能性があり、タンパク質レベルの上昇は膵臓がんに関連する可能性があります。[RefSeq 提供、2015 年 1 月],触媒活性: C 末端アミノ酸を遊離しますが、-Asp、-Glu、-Arg、-Lys、または-Pro とはほとんどまたは全く作用しません。補因子: サブユニットあたり 1 つの亜鉛イオンを結合します。類似性: ペプチダーゼ M14 ファミリーに属します。サブユニット: モノマー。プロエラスターゼ 2 と複合体を形成する場合があります。、

研究分野

画像データ



CPA1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



CPA1 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析